

科目ナンバリング							
授業科目名 <英訳>	ILASセミナー：太陽・地球・惑星の科学 ILAS Seminar :Science of Sun, Earth and Planets			担当者所属 職名・氏名	理学研究科 教授 田口 聡		
群	少人数群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	ゼミナール(対面授業科目)
開講年度・ 開講期	2025・前期	受講定員 (1回生定員)	10(10)人	配当学年	1回生	対象学生	全学向
曜時限	月5	教室	理学部1号館566室(北部構内)			使用言語	日本語
キーワード	太陽 / 磁気圏 / オーロラ / 電離圏 / 惑星 / 磁場						
【授業の概要・目的】							
地球に住む私たちには日常の感覚でほとんど捉えることができないが、太陽からは光や熱だけでなく、電気を帯びた粒子が常に流れ出している。太陽風とよばれるこの流れは、地球に向かって高速で進み、いくつかの「壁」を乗り越え、地球の超高層大気にまで到達すると、漆黒の闇に華やかに輝くオーロラを出現させる。この太陽風は、地球の周辺空間のみならず、他の太陽系惑星の周辺にも様々な不思議な現象を引き起こしている。オーロラをはじめとする、こういった現象を取りあげ、それらが生じる理由について、ともに学び、理解を深めていく。							
【到達目標】							
課題(レポート)に対して自主的に取り組む能力を養う。							
【授業計画と内容】							
地球や他のいくつかの惑星では、その内部の流体核の運動に伴うダイナモ作用によって電流が流れ、それによって、天体の周辺に磁場が広がっている。この磁場が広がる領域は、太陽風とよばれる超音速のプラズマ(高温のため電子とイオンがばらばらになった状態の気体)の流れによって、前面が押しつぶされたようなドーム状の空間を形成している。このような宇宙空間を磁気圏とよんでいる。太陽風は、磁気圏を形成するとともに、一部は磁気圏の中に入り込んで、様々なダイナミックな現象を引き起こす。							
下記項目について、それぞれ2-3回ずつ講義およびレポート発表の形式で授業を行う。							
1. 太陽活動と太陽風 2. 磁気圏の形成と磁気嵐 3. オーロラ現象 4. 電気を帯びた大気：電離圏 5. 木星や土星の磁気圏における電磁気・プラズマ現象							
【履修要件】							
特になし							
【成績評価の方法・観点】							
平常点およびゼミでの発表内容・レポートの内容で評価する。 詳しくは授業中に説明する。							
【教科書】							
使用しない 必要な資料は授業で適宜配布							
ILASセミナー：太陽・地球・惑星の科学(2)へ続く							

ILASセミナー：太陽・地球・惑星の科学(2)

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

(関連URL)

<http://swdcwww.kugi.kyoto-u.ac.jp/wdc/Sec2-j.html>

[授業外学修(予習・復習)等]

前回、レポートを課された人は、その課題について調べ、当日発表する。

[その他(オフィスアワー等)]

授業中、疑問を抱いたことについて積極的に質問することを期待する。

[主要授業科目(学部・学科名)]